

五条天神宮は松原通西洞院とうらふんにあり、「天使社てんしのと称す」祭所すくなひこなのみこと少彦名命、相殿あひどの天照皇太神宮大己貴命おほあなむちのみことなり。桓武帝遷都の初平安城鎮衛へいあんじやうの為造営し給ふ、医道いたうの祖神とす。古は宮殿魏々として東西四町南北五町の神領なり、巡には樹林森々たり。伝教弘法でんけうの両大師も入唐の時帰朝安全の祈願を籠給ふ由社記にあり。承安三年もんがく文覚上人配流の時、当社の鳥居の下に黄金を埋たる計略にて難風を免れしよし、源平盛衰記に見えたり。安元元年には、源みなもとの牛若丸うしわかまる鬼一法眼いちほげんと兵書の遺恨あつて戦ひ、忽感應を得て打勝しも此所なり。又武蔵坊むさしぼうに逢給ひしも此森とかや。至徳元年には將軍義満よしみつ公殿舎を再建し給ふ。祭は九月十日、又節分には白朮小餅宝船をけらせうのもちたからぶねを禁裏むすまへに上る。「小餅料は天文二年將軍義輝よしてる公の母公慶寿院けいじゆあんより御吹拳ありて賜る、それより今に至り公務の沙汰として年々其料を賜ふ。此夜諸人群参して厄難除滅を祈り、三種の神物をうくるなり」